

## 平成17年度協働事業提案 公開調整記録

### No. 7 空き店舗活用による子どもの居場所づくり

と き 平成17年6月29日(木) 10:00~11:00

ところ 大和市役所会議室棟202会議室

参加者

- ・提案者：館合さん
- ・関係課：産業振興課（高橋、郷家） 児童育成課（山口、豆塚）
- ・協働推進会議委員：小杉委員、杉山委員、玉木委員
- ・事務局：市民活動課（小山、鈴木）

---

#### 【提案者の想い・調整の主な内容】

##### 提案者

- ・空き店舗活用について、国や県の制度を利用する場合には、市での制度整備が必要。
- ・県の補助制度には、商店街活性化のコーディネーターの派遣もあると聞いている。
- ・空き店舗活用補助の対象として、事業内容に限定はない。事業として成立していれば良いらしい。
- ・市には、商店街への情報提供をしてほしい。
- ・子育ての拠点してほしいという要望が多い。今後、しんちゃんハウスの活動の空き時間である午前中に、グループ単位での活動に対して無料で場の提供を行っていく。（9月から 時間：午前10時から午後1時まで 日曜・祝日を除く）
- ・問題点としては、どんな人でも出入りができ、怪我等保険の問題がある。
- ・この活動によって、居場所づくりの下準備をしていきたい。地域のお母さんたちの意識付けから始め、空き店舗の活用が可能となったら、そちらに移行していけるようにしたい。最終的には、子育て支援センターのような拠点としていく。

##### 産業振興課

- ・市に空き店舗活用のための仕組みはない。現在要綱の作成等、研究をし、来年度の予算化へ向けて動き出している。
- ・商店街との連携とのことだが、南林間地区は難しいと考える。北部、南部へ目を転じることも必要。
- ・提案者からは、あくまで子育ての拠点を作ることが主目的で、空き店舗の活用という

点が手段の一部に過ぎない印象を受ける。

- ・ 商店街でなくても、拠点となる場が確保できればよいのか。
- ・ 市内にある商店街は40近くあるが、その多くは、街路灯管理のための組織。熱心に活動しているのは10くらいしかないのが現状。商店街でなくてもよいという考えで交渉しても取り組んでくれるところはないと考える。
- ・ 空き店舗に居場所を作ることが、商店街活性につながる具体的なビジョンがあれば商店街に話すことは可能。

### 児童育成課

- ・ 子育て支援センターでは、地域にでて、子育て中のお母さんを集めた支援は行っている。この面で、しんちゃんハウスの取り組みと協力できるところはあると思う。
- ・ 保険等、リスク管理の面で、9月から始める活動への資金補助は出来ない。人的な部分（保健師、保育士、栄養師の派遣）の協力は可能。

### 協働推進会議委員

- ・ 協働事業の取り組みでは、今までのルールからはみ出してしまう部分がある。これまでのルールで対応できない部分をどう乗り越えるか、市と市民で知恵を出し合うことが必要。
- ・ 市からも空き店舗活用法についての知恵を出してほしい。
- ・ 提案がまだ観念的である。どうをどう切り結んでいくか、ある程度内容を絞り込んで、具体的なものとした方がよい。
- ・ 空き店舗活用事例の現場見学をすることも大切だと思う。
- ・ 協定を締結すると、責任も生じてくる。継続性を示せるような、またこの事業に市が取り組むことを、市民に対して説明ができる材料を整えた方がよい。

### **【確認事項】**

- ・ 次回までに、提案者は想いを整理してくる。
- ・ 子育ての拠点となる場が確保できれば、空き店舗ということでもよいのか。
- ・ 商店街という「場」を使うことに価値を感じているのか。
- ・ 商店街活用のビジョン（商店街が目を引く計画）を作成する。
- ・ 市に期待することを明確にする。

### **【次回調整日程】**

- ・ 7月12日（火） 10：30～11：30

【記録者：市民活動課 鈴木】